

それぞれの持ち味を活かして

～みんなで話し合い、無理なく続ける町内会運営～

市名坂東町内会 会長 草 貴子さん



女性役員が担う町内会運営

市名坂東町内会は、新興住宅地内の町内会として、平成20年4月1日から運営が開始されました。現役世代が多く、町内会運営に参加できる人が少ない中、「できる人でやりましょう。」と声を掛けたところ、たまたま集まったのが女性の方々でした。女性ならではの視点を盛り込みながら、令和4年まで15年ほど、女性役員のみで町内会を運営してきました。

無理のない柔軟な運営を目指して

役員会は月1回、月末の木曜日19時から開催し、30～60分で必ず終わらせます。それぞれの事情で毎回2～3名程度の欠席者がいますが、役員会で決まったことは役員全員に伝わるようにしています。

企画立案・事務作業・力仕事など町内会運営に必要な仕事は、それぞれの得意分野が生かせるように役割を分担しています。「家庭が第一」なので、介護や受験等の諸事情により年度途中で欠員となった場合も補充せず、次期改選まで空席としています。

このように一人ひとりの負担を軽減し、ライフスタイルの変化に合わせることで無理のない、柔軟な町内会運営ができていると思います。

町内会が女性活躍の場へ仲間と共に楽しく活動

町内会役員という「役割」と「場所」があることで、女性たちは力を発揮しています。

家族を支える立場から、「地域をより良くしたい」という仲間と共に、地域の人々を支える町内会役員となり、経験を積んだことで自ら発言し、積極的に行動できるようになってきました。

特に、防災への取組には、女性ならではの視点を取り入れました。もともとこの地域には集会所がなく、人が集まる場所がほしいという声があったことから、会員に

アンケート調査を行い、平成22年に建設しました。設計の段階から災害時を想定し、知恵を出し合いました。例えば、女性でも手が届く災害用備蓄棚や大収納のロフトを設け、毛布や布団を置くなど、災害時に迅速に対応できるように工夫しています。明るく暖かい場所になるようにオレンジ系の内装や滑らない床材を選び、IHの対面キッチンや収納付きベンチを設置。トイレは障害のある方も使いやすいよう多目的用を含め2つ作るなど、日常的にも使いやすい集会所を実現しました。

柔軟に発言し、行動することがとても大切。それが持続可能な運営につながっているし、役員の枠を超えた交流を育んでいると思います。

若い子育て世代を応援 子育て支援活動「ずんだっこ」

集会所は地域の人が集まる場です。高齢者、障害者だけでなく地域で子育てしている若い世代にも大事な拠点です。東日本大震災後、若い親御さんから「小さな子どもと一緒に集まる場所を作ってください。」と申し出があり、平成23年11月から週1回、集会所を開放して子育て支援「ずんだっこ」を始めました。絵本、おもちゃがあるのもこの集会所の特徴で、口コミで広まり、年間500名が利用しています。

主に節分の豆まきやクリスマス会等を開催しており、若い親御さん同士の情報交換の場であると同時に、イベントを通して役員と関わることで、地域に顔の見える関係ができ、地域行事への参加のきっかけにもなっています。

町内会運営に新しい風をと課題提案を発信

町内会運営に多様な視点を取り入れるため、令和5年より男性が役員に就任しました。女性と男性は発想が違うので、お互いに意見を出し、得意分野を連携し共有していくことで「なるほど!」という発見もあり、より視野が広がるのではと期待しています。

